



かわいいな すごいな ふしぎだな

校長 藤本 萌

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、先月は台風や連日の猛暑日などに学校生活もずいぶん惑わされました。今月はようやく秋晴れのさわやかな青空が見えそうです。

さて、先日、4年生が旭区区政推進課主催の「帷子川環境学習」に参加し、こども自然公園にあるNPO法人「どろんこクラブ」の方々を講師として、帷子川に住む生き物を採取して観察しながら種の多様性や川を取り巻く環境について学びました。学校のすぐ近くの入り口から川辺に下りていき、水の中に入って生き物を探すのですが、初めはおそろおそろ川の中に足を踏み入っていた子ども、すぐに慣れて夢中で魚やエビ、ザリガニなどを見つけていました。「学校の近くに川があるっていいね。」と言っている子どももいましたが、その言葉通り、本校の学区には豊かな自然があります。住宅や商業施設もある市街地でありながらも、川や林、丘や畑、緑に恵まれた学区です。

朝の登校見守りで門に立っていると、日ごろから、子どもたちが持ってきた虫かごや水槽を「見て見て!」「ぼくが捕まえたの」などと、得意げに見せてくれることがあります。この季節はカマキリが大人気です。時々、カナヘビやイモリの時もあります。夏休み前は、クワガタ、カナブン、ダンゴムシが人気者でした。教室を見回ると、ロッカーや廊下の棚に生き物の入った入れ物が並んでいたり、友達が持っている虫かごに「見せて」と集まっていたりする光景が目に入ります。小さな生き物の姿や生態に興味をもって観察したり、世話をすることによって慈しむ気持ちをもったりすることは、教科書では学べない貴重な学習です。

現在、職員玄関には小さな鳥の巣が飾られています。生き物が大好きな子どもたちに見せてあげたい、と職員が置いてくれたものです。新校舎の裏にある大きな木を剪定しているときに、主のなくなった巣を見つけたそうです。よく見ると、巣の材料に、おそらく学校の敷地で拾ったであろうスズランテープも混ざっています。実物を初めて目にした子どもも多く、小さな鳥の知恵やたくましさに関心していました。



この先、どれほど社会の情報化が進み、疑似的に動植物を育てたり観察したりすることが盛んになったとしても、子ども達には、感受性の豊かな小学校時代にこそ五感を働かせ、生き物と実際に関わりながら体験的に学んでほしいと思います。無論、無理をしてまで触ったり飼育したりしなくてもよいのですが、実物を見たり、周りの人の知識や生き物への関わり方を知ったりすることが子ども達の心を動かし、興味や関心を引き起こすことでしょう。そしてそれは子ども達の知や心を豊かに育てていくことにつながります。都岡小学校では、これからも体験的な学習活動を大切にしていって、思いやりの心や、知的な好奇心、探究心の育成に励んでまいります。